

【春到来に想う】

「立春」「雨水」「啓蟄」「春分」「清明」・・・

日本人の生活の中に、季節感を与えてくれるこれらの言葉を二十四節気というそうです。

人間が、1年の長さを測ろうと考えるようになったのは、農耕や狩猟といった社会生活を円滑に営むための手段として、それを利用しようとしたからでしょう。1年とは、「季節が一巡りする長さ」です。

『暦の上では・・・』、という言葉をよく耳にします。実際に感じる気候とは、少しずれがあるからだと思います。

今年の「啓蟄」は、三月六日冬籠りの虫が春暖につられて這い出る頃です。長く、厳しい冬をじっと耐えて、待ちに待った「春」がすぐそこに来ています。

今朝、通勤道路で、暦よりも早く、冬眠から覚めたのか、道路を横切ろうとした、カエルが残酷にも、交通事故にあっていました。

せっかく、冬の寒い間、「暖かい春」を満喫しようとじっと待って、やっと、やっと、出てきたのに、これから、卵を産み、おたまじゃくしを育て、そして、大合唱もしたかっただろうに。とても切ない気持ちになりました。

こんな光景で、春の到来を実感するのではなく、美しい、自然の草花の息づきで春を感じたいものです。

